



TOKYO 2020に向けたスポーツ国際交流員の活躍 —— 山形県長井市

タンザニアからのSEAを招致

長井市は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、タンザニアのホストタウンとして2016年12月に登録を受けました。そのことを受け、相互の訪問等を通じ交流を続ける中、さらに2020年へ向け市民の機運を高め、また、タンザニア選手団の受け入れ態勢を充実させるため2018年からスポーツ国際交流員（SEA）としてバハティ・ロジャーズさんを任用しています。

タンザニアではスポーツ行政官として活躍していた経歴を生かし幅広い分野で活動を行っています。長井市での活動は、中学校のバスケットボールクラブチームでのコーチ、高齢者向けの健康教室など、ジャンルや年代は多岐に渡ります。今年度は、新たな取り組みとして、地域住民向けのスポーツクラブ内でネットボール教室を予定しています。

主に英語を使用しての活動となりますが、普段は英語をためらう生徒達がゲーム中に自然と英語でコミュニケーションをとる姿をみると、スポーツ交流の可能性を感じさせられます。

タンザニアと長井市の懸け橋に

2018年長井マラソン大会へタンザニア選手団を招致した際は受け入れの中心となり活躍しました。自身のスポーツ経験を生かして選手団の環境整備や時にはスワヒリ語の通訳など幅広く選手をサポートし、選手団にとっては無くてはならない存在となりました。

また、プライベートでも市民と積極的に交流を図り、バハティさんの存在がタンザニアをより身近に感じさせるものとなっています。本人も「2020年以降もタンザニアと長井市をつなぐ役割を担っていきたい」と意気込んでおり、今後も両国の懸け橋としてさらなる活躍を期待しています。



市内小学校での陸上教室（右がSEA）



2018年タンザニア訪問団の市役所表敬訪問（中央がSEA）



市内小学校訪問時（中央がSEA）